

「協同学習モデル」より豊かな仲間づくり

フラッグフットボールの教育的意義の一つとして、集団的達成があげられています。また、その実現に向けた役割行動を可能にする点も魅力の一つといえます。しかし、フラッグフットボールを授業で扱えばこれらの教育的な意義が必ず実現されるわけではありません。

フラッグフットボールは、確かにそれ自体、集団的達成や役割行動の学習を容易にします。しかし、その可能性を確実に授業で実現していくには、授業の計画段階や実施段階で教師が確実に踏まえるべき手続きが存在します。

「協同学習モデル（通称CL。Cooperative Learning Model）」で示されている諸手続きは、その典型です。

協同学習モデルでは

協同学習モデルでは、授業の計画段階で

- 1) チームとして目指すべき目標を明示すること
 - 2) その達成に向け個人が追うべき責任を明確にすること、
- さらに
- 3) 成功に向けた実質的な機会を保障することが求められます。

加えて、

- 1) グループ内異質、グループ間等質のグループ分けをし、
- 2) グループを固定し、

それにより

- 3) グループ内の継続的な相互作用を保証し、グループ内のメンバー間の相互依存性を高めることとなります。

同時に

- 4) 個人の負うべき責任を明確にするとともに、
- 5) 仲間と上手に関わるスキルの発達を意図して、
- 6) 教師は促進者として機能することになります。

例えば、教師は授業中に、生徒達がチームとして得た経験を省察することを意図的、定期的に促すこととなります。同時に、生徒間のコミュニケーション能力の改善に関わる期待を明示したり、その実現状況を観察、評価し、現実的な修正を加えながら授業を行うこととなります。例えば、授業の最後に全体の前で好ましい行動を称賛したり、好ましくない行動への省察を求めるといった手続きが取られます。この過程では、解決すべき課題の説明の仕方や発問の仕方が重要になります。君たちのグループが抱えている問題は何か。その問題を解決する方法を3つあげてごらん。といった具合です。

フラッグフットボールの授業づくりに引き寄せれば

フラッグフットボールの授業づくりに引き寄せれば、

- リーダーシップや運動能力等からみて異なる能力を備えた児童、生徒からなるチームを作成し、
 - チームを固定し、
 - 個々人の役割を明確にし、
 - チーム内での話し合いを通してチームとして課題の達成を求めること、
- さらには、
- その役割を成功裡に達成できるように支援することになります。

しかし、技能に関わる課題や立案する作戦が難しすぎると、作戦が成功しにくくなります。その意味では、児童、生徒の発達の段階や学習環境に応じた、技能や人間関係づくりに関わる課題の難度設定に対する教師の細やかな配慮が必要になります。

役割の例

リーダー

チームのまとめ役



進行係

作戦づくりの
司会進行役



記録係

得点等記録役



応援係

応援・励まし役



用具係

用具の準備役



これは、一つのアイデアです。しかし、フラッグフットボールの秘めている可能性をより一層引き出し、授業で実現していくためには、教師の細やかで意図的な営みが不可欠です。それは、授業の計画段階と同時に、授業を実施している際にも同じです。

フラッグフットボールの授業づくりにこのようなアイデアを実際に活用することを試みられ、先生方の中でその成果に関わる情報交換をなされてはいかがでしょうか。

岡出 美則
(YOSHINORI OKADE)

筑波大学教授
日本フラッグフットボール協会
代表理事

